

2025年度(令和7年度)

事業報告書

自 2025年4月 1 日

至 2026年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2025年度(令和7年度)事業報告]

今年度も「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針とし、引き続き強化と普及の両輪を回し精力的に活動した。特にパリ2024オリンピック・パラリンピック（パリ大会）までの総括を踏まえ、本会内にタスクフォースを編成し次期強化戦略計画を策定した。この強化戦略計画に沿った新たな強化体制と活動をスタートさせた。一方で、財務基盤の立て直しも引き続き最重要課題と位置づけ、新たな協賛金の獲得や予算管理規程の遵守に努めるなど黒字決算を継続することができ改善が進んだ。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供できるよう、各委員会が協力し合いローイング人口の増大に向けた取り組みを実施。また、ロサンゼルス大会から正式種目に採用される「コースタルローイング」についても振興に加え強化を目的に各水域の協会との連携を強め、強化拠点を構築することができた。また、スポーツ庁のeスポーツ推進の流れにもとづき、4回目となるバーチャルインドアローイング大会を実施。スイスのローザンヌで開催されたワールドローイング連盟と日本スポーツ振興センターの共催による「バーチャルスポーツフォーラムプラス」にも参加し意見交換を行った。

2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

パリ大会を終え軽量級が除外となり、コースタル種目がロス大会より新たに加わった。新強化戦略計画においては、全ての種別とカテゴリーで男女シングルスカルを重点種目とし、選択と集中を基本とした強化活動をスタートした。一方で、自国開催である2026年アジア競技大会に向けては、参加全種目でメダル獲得を目標に強化を展開。また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、従来の方針を基本にJ-STARプロジェクトの推進やエリートアカデミー事業への積極的な参画などタレント発掘育成事業の更なる充実と共に、アスリート育成パスウェイ「ローイング版FTEM」の構築に継続して取り組んだ。

また、本会が主催する大会においては監督・コーチの公認スポーツ指導者資格の取得を義務付け、選手が生涯にわたってローイングを楽しみ、フィジカルリテラシーを身に着けられるような指導者の育成にも鋭意取り組んだ。

3.「ローイングの全日本選手権大会およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、5月の全日本選手権をはじめとして12大会を主催大会として開催。内2大会を「海の森水上競技場」で開催し、同会場による大会開催ノウハウを蓄積しつつ、「する人」、「みる人」、「支える人」としてより魅力ある大会となるように新規スポンサーの獲得、そして東京都や指定管理者とも緊密に連携しローイングのファン拡大を図った。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

公平な派遣選手選考を行い、各種別ともシニア・U19・U23世界選手権を中心にワールドカップやワールドユニバーシティゲームス、アジア大会など世代別の主要な国際大会に選手団を派遣した。

5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

コースの新規・更新認定業務を都道府県協会や地元自治体などと協力して引き続き実施した。

6.「その他の重要な事業」

財政基盤の再建を遂行するため予算管理の徹底と新たな収入源の確保に努め、黒字継続を実現できた。また、今年度、上部機関によるスポーツ団体ガバナンスコード適合性審査が実施され、要改善事項の該当はなしとの結果であった。今後も、より一層の体制強化・充実を継続する。

[2025年度(令和7年度)事業報告]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

① 競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催した。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月22日(木)～25日(日)	第103回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
6月7日(土)～8日(日)	第16回全日本マスターズレガッタ	長野県下諏訪町 下諏訪ローイングパーク
6月21日(土)～22日(日)	第75回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月26日(土)～27日(日)	第45回全日本中学選手権競漕大会	茨城県潮来市 潮来ローイングコース
8月1日(金)～5日(火)	第73回全日本高等学校選手権競漕大会	広島県福山市 芦田川漕艇場
9月3日(水)～7日(日)	第52回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月3日(水)～7日(日)	第65回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月6日(土)～7日(日)	第2回ジャパンオープンレガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月4日(土)～7日(火)	第79回国民スポーツ大会ローイング競技	滋賀県大津市 関西みらいローイングセンター
10月31日(金)～11月2日(日)	第66回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
11月9日(日)	TOKYO2020 開催記念レガッタ	東京都江東区 海の森水上競技場
2026年 3月13日(金)～15日(日)	2026年ローイング日本代表候補選手選考大会	東京都江東区 海の森水上競技場
3月20日(金)～22日(日)	第37回全国高等学校選抜ローイング大会 JOCジュニアオリンピックカップ大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本ローイング選手権大会は軽量級種目を含めて開催した。

② インドアローイングについて

・A大会(全国8ブロック)およびB大会を開催した。

③ 競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2025年度の競技団体および競技者の資格決定を行った。
- ・2025年度の競技団体および競技者登録を行い、当該年度の登録状況を把握した。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについて新規認定を実施した。

・2025年度認定更新を実施したコース

都道府県	コース名	級	レーン数	距離 (m)
岩手県	錦秋湖漕艇場	C	4	1,000
茨城県	潮来ローイングコース	B	6	1,000
千葉県	小見川ボート場	B	6	1,000
福井県	久々子湖漕艇場	B	6	1,500
静岡県	天竜市営ボート場	B	6	2,000
岐阜県	長良川国際ボートコース	A	10	2,000
兵庫県	加古川市立漕艇場	B	5	1,000
愛媛県	鹿野川湖ボートコース	C	6	1,000
熊本県	班蛇口湖ボート場	B	5	2,000

・2025年度新規認定水域

群馬県 ※1	城沼ボートコース	B	6	1,000
青森県 ※2	大湊特設ローイング場	B	5	1,000

※1 2029年度国民スポーツ大会開催予定地

※2 2026年度国民スポーツ大会開催予定地

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第79回国民スポーツ大会、第73回全日本高等学校選手権競漕大会および第37回全国高等学校選抜ローイング大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第103回全日本ローイング選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」(※普及委員会主管)を開催した。

②施設整備および運用システム構築を関係先と連携しながら継続検討中。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行った。

・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行った。

②審判員養成事業

・国スポ及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図るが、結果は未達であった。

・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行った。

研修会名称	開催時期	開催場所
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第93回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

高体連主催研修	11月	京都府・宮津
---------	-----	--------

③国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣した。

[World Rowing主催大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
World Cup 1	Varese, Italy	6/13-15	塚田秀樹	京都
World Rowing Masters	Banyoles, Spain	9/10-14	薬師寺朋美	東京
World Cup 2	Luzern, Switzerland	6/27-29	田畑喜彦	愛知

[Asian Rowing Federation主催大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
Asian Rowing Cup I & Masters Regatta	Samarkand, Uzbekistan	中止	成田泰久	東京
Asian Rowing Beach Sprint Championships	Pattaya, Thailand	8/6-10	吉野泰宏	東京
Asian Rowing Beach Sprint Finals	Zhoushan, China	9/11-14	山崎佳奈子	東京
Asian Rowing Cup 2	Shangrao, China	10/30- 11/1	塚田秀樹	京都
Asian Rowing Championship	Hai Phong, Vietnam	11/26- 12/2	松田雅彦	神奈川

(6) 国際大会に関する事業

第20回アジア競技大会の準備を組織委員会と連携して実施継続している。

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

パリ大会を終えローイング競技を取り巻く環境は大きな変革期を迎えている。従来重点強化種目と位置付けてきた軽量級種目がパリ大会で打ち切りとなり、コースタル種目が2028年ロスアンゼルス大会より新たに加わることとなった。

本会では、これから10年後を見据えて大きな環境変化に対応するため『2024年パリ大会後の国際競技力向上に向けての強化総括』を実施し、まずは詳細に現状把握と解析を行い、そして次期強化戦略計画を策定した。

2025年シーズンはとりわけその次期強化戦略計画のスタートの年であり新たな方針の下、パリ大会までの取り組みを継続しつつ、総括で明確となった改善すべき活動に関し見直しを行った。

②具体的活動

1) ナショナルチーム及び所属団体における共通の強化メソッドの実施（共有と浸透）

- ・合宿入りの前に所属とミーティングを行い、トレーニングの内容を確認するなどナショナルチームと所属間におけるトレーニング方法（強化メソッド）の共有化を図った。

2) 代表チームの識別

- ・前年度に続きナショナルチームにおいて A 代表、B 代表および C 代表の識別化を図り、A 代表はオリンピック、アジア競技大会及び世界選手権へ向けた強化を、B・C 代表は欧州インターナショナルレガッタやアジア選手権など次世代アスリートの育成を目的とした強化を実施した。

3) オープン種目強化事業

- ・オープンカテゴリーでの持続的な成長を果たすトレーニングプログラムの確立や支援体制の整備などあらゆる角度で環境を整え、ナショナルチームとして成長し続けるための基盤整備を実施した。

特に 2026 年にはアジア競技大会が自国開催となり、2025 年から 26 年にかけてオープンカテゴリーでの継続的な強化プログラムの基盤確立と 2028 年ロスアンゼルス大会での成功の可能性を高めるべくプログラム構築を目指した。

尚、アジア競技大会の種目が正式に確定次第、その種目に応じた強化策も検討を行い、2026 年 2 月までに派遣種目、種目の優先順位を明確にし、日本代表選考を行うことができた。

4) サポートコーチ制度の更なる拡充

- ・所属団体からのサポートコーチを積極的に受け入れ、代表チーム及び所属チームにおける継続指導の実現を目指した。
- ・次世代指導者育成という観点でも、サポートコーチ経験者の中から将来のナショナルチームコーチを育成していくことも視野に入れた活動を実施した。

5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック

- ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属団体との連携を更に強化した。

6) 協会内組織連携

- ・アスリート、医科学、パラローイングなど各委員会との横断的な連携により、合宿や国際大会においてより快適なチーム環境構築を目指した活動を実施した。
- ・国際競技力向上に向けてアスリート育成パスウェイの再構築が急務であり、スポーツ庁、日本スポーツ振興センターが示す方針等を参考にしながらローイング版アスリート育成パスウェイの再構築を企画・戦略、普及、指導者育成、広報委員会等と連携し取り組みを展開。パスウェイマップの更改と全ローイング関係者への周知と浸透を目指し推進した。
- ・ロス大会で新種目となるコースタル種目については、さらなる環境整備が必要なことから、今後の強化推進体制なども含めてコースタル委員会と連携し、強化体制の整備および強化活動での連携などを実施した。

7) 継続強化

- ・タレント発掘・育成事業を継続し高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指した。
- ・U23 選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイの構築、そしてメダルポテンシャルアスリート（MPA）、およびその予備

軍であるポテンシャルアスリート（PA）制度の運用については改善を図りながら着実な推進に努めた。

③強化合宿及び大会派遣について

【シニア】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日（月）～13日（日）
6月欧州遠征 <u>ローイングワールド カップ</u>	フランス・ エギュベレット	遠征：6月1日（日）～7月1日（火）
	<u>イタリア・ヴァレーゼ</u>	レース：6月13日（金）～15日（日）
	<u>スイス・ルツェルン</u>	レース：6月27日（金）～6月29日（日）
7-9月強化合宿	田瀬湖	7月22日（火）～8月8日（金） 8月22日（金）～9月5日（金）
9月強化合宿	海の森水上競技場	9月8日（月）～15日（月）
世界ローイング 選手権	上海・中国	遠征：9月16日（火）～9月17日 レース：9月21日（日）～28日（日）
アジアローイング 選手権	ベトナム・ハイフォン	遠征：10月12日（日）～10月21日（日） レース：10月16日（木）～10月19日（日）

【World University Games】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日（月）～4月13日（日）
6月強化合宿	戸田ボートコース	6月3日（火）～6月22日（日）
7月強化合宿	久々子漕艇場	6月30日（月）～7月17日（木）
World University Games	ドイツ・デュイスブルク	遠征：7月18日（金）～29日（火） レース：7月25日（金）～7月27日（日）

【U23】

事業	場所	期間
4月強化合宿	戸田ボートコース	4月7日（月）～4月13日（日）
6月強化合宿	戸田ボートコース	6月3日（火）～6月22日（日）
7月強化合宿	久々子漕艇場	6月30日（月）～7月16日（水）
World University Games	ドイツ・デュイスブルク	遠征：7月16日（水）～29日（火） レース：7月23日（水）～7月27日（日）

【U19】

事業	場所	期間
SBS 本戦	海の森水上競技場	4月25日（金）～4月27日（日）
5月強化合宿	久々子湖漕艇場	5月9日（金）～5月13日（火）
6月強化合宿	久々子湖漕艇場	6月12日（木）～6月16日（月）
6月-7月強化合宿	戸田ボートコース	6月27日（金）～7月4日（金）
7月強化合宿	戸田ボートコース	7月22日（火）～7月30日（水）
U19 世界選手権	リトアニア・トラカイ	遠征：7月30日（水）～8月12日（火） レース：8月6日（水）～8月10日（日）
8月強化合宿	戸田ボートコース	8月20日（水）～8月24日（日）
アジアジュニア 選手権	中国・瀋陽	遠征：8月24日（日）～9月1日（月） レース：9月28日（木）～8月31日（日）

（2）タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

1）海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリートの育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を目指した。

2）国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図った。

3）発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を実施した。

4）発掘モデル再構築事業

- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施した。
- ・特に種目最適型タレント発掘事業について再構築を目指した。

5）JOCエリートアカデミー事業の継続

- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行い、19期生の入校に向けた選考、環境整備を行った。

②具体的活動

1）タレント発掘海外遠征

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
7月	Henley Royal Regatta	ヘンリー・オン・ テムズ・イギリス	MPA

2）MPA（WUG・U23・U21）強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23
6月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23
7月	MPA育成合宿	福井県・美浜	WUG・U23

12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12-2月	EA19期生育成合宿	埼玉県・戸田	EA候補生

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征予定地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	有望選手
2月	有望選手発掘育成事業	埼玉県・戸田	有望選手

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
7月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
8月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
11月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
12月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
1月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
2月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント

(3) 医科学に関する事業

- ① 医療従事者を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングの継続に貢献した。また、トレーナー部会を通じコンディショニングに関する啓発を行った。競技における各種の調査と分析を行い、競技発展のため提言を行った。ローイング選手の底上げに寄与するために、強化戦略医科学活動を行った。
- ② メディカルサポートに関する事業
 - ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権、SBS）に医師ならびに看護師、理学療法士を派遣し、大会教護業務を行った。
 - ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行った。
 - ・トレーナー部会において、コンディショニングに関する知識を普及するため、大会期間中に指導者と選手を対象に講習会を開催した。
- ③ ローイング練習・大会における熱中症に関する事業
 - ・「ローイング競技の練習における熱中症対策」「レース会場における熱中症対策」「ローイング競技会における熱中症対策～主催者・医師に向けて～」の3文書を作成し、ホームページ等で広報した。
 - ・近年の高温化を踏まえて、ローイング会場におけるWBGT、UVと体調不調の関係を分析し、体調不調者の要因と防止策の検討を行った。
- ④ 強化戦略医科学活動

- ・体調管理に関するビデオ講義3編、メディカルチェックに関する文書を作成しホームページで公開した。
- ・戸田で冬季コンディショニング相談会（12月～2月 計3回）を開催した。

（４）指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献する。

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）養成事業

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる公認指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1、コーチ3、コーチ4養成講習会について以下の日程で講習会を開催した。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ4養成講習会	専門科目：2026年1月10日～23日	東京都/JSOS
公認コーチ3養成講習会	前期：10月11日～13日 後期：11月22日～24日	長野県/諏訪湖漕艇場
公認コーチ1養成講習会	前期座学7月12日～13日 後期座学：8月16日～17日 実技①：10月25日～26日 実技②：11月15日～16日 実技③：12月6日～7日	座学：オンライン 実技①：青森県青森市 実技②：福岡県北九州市 実技③：大阪府/高槻市
公認スタートコーチ	① 8月9日（土） ② 9月27日（土） ③ 12月13日（土）	① 大阪府/清風高校 ② 埼玉県/戸田公園事務所 ③ 埼玉県/戸田公園事務所
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	高体連主催研修 ① 東地区11月29日（土）～30日（日） ② 中地区11月22日（土）～23日（日） ③ 西地区11月29日（土）～30日（日）	① 北海道/道民活動センター ② 京都府/宮津天橋高校宮津学舎 ③ 高知県/高知工業高等学校

② コーチカンファレンス、更新研修開催について

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会や都道府県協会、各クラブなどと連携し、コーチカンファレンス、更新研修を開催。2025年度は高体連ローイング専門部開催の更新講習会を開催した。

③ コーチ（テクニカル）部会の設置について

公認コーチ4やメディカル資格取得者、養成講座の講師などを中心としたデベロップメントの場を設置。コーチミーティングおよびコーチカンファレンスの講師などとして活躍できるよう2026年度より強化委員会や医科学委員会をはじめ関係各委員会と連携し活動開始する。

④ 次世代コーチ育成について

ナショナルチームの活動を通じて、トップアスリートのフィジカルリテラシー向上と将来のコーチ育成を目指し、強化委員会をはじめ各委員会が連携し、ナショナルチーム向け研修会やサポート事業等の開催にむけて調整。学び意識の高いアスリートや若手ナショナルチーム経験者へのJ S P O公認コーチ取得に向けたサポートやナショナルチームのコーチインターンシップを実施に向けて強化委員会と連携を開始。

(5) アスリートに関する事業

以下事業を実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画した。

① トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を行った。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言。

② 本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、広報活動に積極的に参画した。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画した。

③ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行った。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会および全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の状況等を共有した。

② ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ローイング連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行った。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向け全国中学校ローイング連盟と連携し、7月に全日本中学選手権競漕大会を開催した。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・普及およびレガシー活用を目的として、海の森水上競技場で約130クルー・650名の参加者の下、11月9日に開催した。

④ 全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並びに市町村レガッタ（9月27日～28日、兵庫県城崎）に参加し、協議会との関係強化を図った。

⑤ オリンピアン・パラリンピアンに関する活動

- ・ローイング競技普及を目的に「エルゴチャレンジ」を海の森水上競技場にて11月9日（TOKYO2020開催記念レガッタ開催中）に開催した。

⑥ バーチャルインドアローイング大会の実施

- ・幅広くローイングに触れてもらう機会創出を目的に2026年1月18日に開催した。

(2) 広報に関する事業

ローイング機会拡大とローイング人口拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・本会機関紙「ROWING」を6回発行する。同時に内容の刷新と編集経費の見直しを行った。

② 本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを行った。
- ・より見やすく、検索しやすく、発信しやすいとの観点から改善に向け内容を一部変更した。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を積極的に行った。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のため、メディア露出を目的とした情報配信をより積極的に行った。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組んだ。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを継続して行った。

① 主催大会における救助業務

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）において施設委員会、審判委員会、医科学委員会、関東漕艇学生連盟と連携し救助業務を行った。
- ・講習会等も企画し連携力強化を含めたスキルアップに取り組んだ。

② セーフティアドバイザー研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図った。
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	1月	埼玉県・戸田市 & オンライン

③ 各地での安全活動支援とローイング水域の環境整備

- ・インシデントレポート掲示板に集まった事例展開等を通じ、各地での安全活動に対する意識向上を図った。
- ・2024年度に改定した「安全マニュアル」の販売促進を通じ各地の安全活動を支援した。
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を企画・サポートした。

④ 環境保全の意識付け推進

- ・昨年実施したクリーンウォータープロジェクトの流れを今後につなげるため、全日本ローイング選手権大会、TOKYO2020開催記念レガッタやバーチャルインドアローイング大会の場を通じ、啓発活動を行った。

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年のロス、その後の2032年のブリスベンまで見据え、コースタル中長期強化戦略計画のスタートの年と位置付け、コースタル種目の特徴に適応する強化プランを推進した。

① コースタル・メダル・ポテンシャル・アスリート（CMPA）強化事業

- ・CMPA認定選手（指名ユニットのコーチ、ハンドラー含む）の国内強化合宿、海外強化合宿、国際大会派遣を強化委員会とともに実施した。

② 強化インフラ事業

- ・国際的指導者育成プログラムを指導者育成委員会とともに推進。
- ・国際的情報分析活動（国内外視察含む）を実施した。

③ U19タレント発掘事業

- ・U19コースタルローイング日本代表選手の国内強化合宿、国際大会派遣を強化委員会、高体連とともに実施した。

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・2025世界ローイング選手権にてB決勝以上の成績を目指す。

(2) 基本計画の推進・実施

- ・国際競争力を強化し、世界選手権でPR1 男子シングルスカル、PR3 混合ダブルスカルがB決勝に進出した。
- ・NTC 競技別強化拠点である海の森水上競技場にて医科学分野のサポートを充実させた。
- ・岐阜県川辺漕艇場で乗艇体験会、強化合宿を実施し、パラローイング新規拠点づくりと競技普及を図った。
- ・J-STAR 等による選手発掘に努め、新たな指定選手4名を発掘できた。
- ・有償コーチ2名の増員により、サポートを拡充できた。

(3) 具体的活動

① 国内合宿

実施月	事業名	開催地	対象選手
4月	4月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
	ワールドカップ 直前合宿	東京都・海の森水上競技場	ワールドカップ 参加クルー
6月	6月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	秋田県・大潟村	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
	世界選手権直前合宿	米子市・錦海ボートコース	世界選手権参加クルー
9月	9月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
11月	11月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手

11月	クロストレーニング 合宿	東京都・ナショナルトレーニングセンター	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	岐阜県・川辺漕艇場	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣した。

派遣期間	大会名	開催地
6月	ワールドカップ ヴァレーゼ大会	イタリア・ヴァレーゼ
9月	2025世界ローイング選手権	中国・上海

③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖漕艇場、岐阜県川辺漕艇場において乗艇体験会を実施した。

5. 企画管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

① World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ローイング連盟(WR)通常総会	9月29日	上海/中国 (オンライン参加)
アジアローイング連盟(ARF)総会	10月18日	Hai-Phong/Vietnam (松田国際審判が参加)

ローイング競技を取り巻く外部環境の変化は、加速しているため、26年度以降、現地参加が可能となるよう、渡航費の確保が必要。

② 国際交流事業

- ・東京五輪のレガシーを基盤とした海外各機関との連携の強化を推進しているが、現状は財源不足のため関係役員等の活動も制限されており改善が必須である。今後は日本の国際的なプレゼンスを安定的かつ持続的に向上させるためにも、組織としての支援基盤を戦略的に強化し、持続可能な運営体制へと進化させていく検討が必要である。

③ 国際人材養成事業

- ・費用の関係もあり、JOCが主催する国際人養成アカデミーへの人材派遣ができなかった。今後、予算化および人選を行い、派遣再開を目指す。

④ 国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、開催に関する支援を継続実施している。

(2) 財政基盤強化に関する事業

① 助成金について

・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し、本会の諸事業の重要性について理解を求めるとともに継続的な支援を要請した結果、各団体より引き続き支援を受けることができた。

② 事業収入の見直しについて

・各種事業収入における単価については昨年度に改定を行ったところであるが、その他の収入項目についても財政基盤強化の観点から見直しの検討を進めた。今年度中の実施には至らなかったものの、次年度以降の実施に向けて引き続き検討を継続していく。

③ マーケティング戦略の構築

・引き続きJOC/NFジョイントマーケティングに参加したが、協賛企業の減少もあり、金額は減額となった。他方、協会活動へのスポンサー獲得や主催大会の協賛金獲得に努め、前年度以上の協賛金を得ることができた。

・ビジョンに基づき本会の事業価値を見直し、トライアンドエラーを繰り返しながらもマーケティング活動を実施し、財務状況の立て直しに貢献した。

④ 情報プラットフォームの活用

・スポーツ庁の助成を得て構築した情報プラットフォームの実務運用を検討し、「みる人」「する人」「支える人」を一元管理できるよう取り組んでいる。

(3) ガバナンス強化に関する事業

加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査が実施され、前回同様、要改善事項の該当はなしとの結果であった。今後も、より一層の体制強化を継続する。

① 公益法人に関する業務の推進

・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施。

② コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図った。

・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけた。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に広げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を行った。

① ドーピング検査受入

・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行った。

② ドーピング防止啓発活動

・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施した。

- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・各地域大会（朝日レガッタや国スポ地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・アウトリーチ活動を全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施した。

（５）企画戦略に関する事業

- ① 「新ビジョン」の推進・実現に向けて、本会の現状分析と課題を整理し、各委員会と連携し中期事業計画の精査、軌道修正及び本会の長期的な方向性に関し戦略を提案
 - ・国際競技力強化に向け協会内にタスクフォースを編成し、次期強化戦略計画を策定した。
 - ・また、中長期戦略計画策定にむけ準備を開始した。
- ② スポーツ・インテグリティ、ガバナンス推進にむけ、その重要性を周知徹底
 - ・スポーツ・インテグリティ、ガバナンス推進の方針に基づき、協会初となる、外部講師を招いた役員・事務職員を対象としたガバナンス講習会を実施した。
- ③ 2020 東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般を推進
 - ・国際オリンピック委員会、各 NOC との情報交換を実施した。
 - ・ワールドローイング及び加盟 MF との情報交換を継続的に実施した。
 - ・スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、JOC と情報交換を実施した。
 - ・東京都と今後の海の森水上競技場の有効利用・活用について意見、情報交換を実施した。
- ④ バーチャルローイング、e スポーツ推進に向けて情報収集及び研究を推進
 - ・日本スポーツ振興センター及びワールドローイングと連携し共同研究を推進した。
 - ・東京都と連携しバーチャルローイング、e スポーツ推進に助言、支援をした。
- ⑤ 2026 年アジア・アジアパラ競技大会に関する諸準備を推進
 - ・アジアオリンピック評議会、アジアローイング連盟との意見、情報交換を実施した。
 - ・2026 アジア・アジアパラ競技大会組織委員会と意見、情報交換を実施した。

以上